

第2回名寄市保健医療福祉推進協議会 障害者部会（顛末）

日 時： 平成29年9月5日（火）
18時00分～19時30分
場 所： 名寄市役所4階 大会議室

【出席者】 8名

姉崎部会長、尾谷副部会長、秋山委員、市川委員、山中委員、
山田委員、福士委員、瀬戸口委員

【事務局】 田邊健康福祉部長、鈴木社会福祉課長、柴野社会福祉課主幹、
山崎障がい福祉係長、宮川障がい福祉係主任

1 開会【部会長】

2 部会長挨拶【部会長】

3 議 事【司会：部会長】

報告第1号 第3次障がい者福祉計画及び第5期障がい福祉実施計画策定にかかるアンケート調査結果について

協議第1号 第3次障害者福祉計画及び第5期障害福祉実施計画策定にかかるアンケート調査結果の考察

事務局（障がい福祉係長）から、第3次名寄市障がい者福祉計画・第5期名寄市障がい福祉実施計画策定のためのアンケート結果集計報告書（案）について説明。

アンケート結果集計報告書（案）の7つの項目について1項目ずつ説明し、その都度、委員の意見を伺った。

1 あなたの（本人）の性別・年齢・ご家族などについて

【委員 A】

今回、有効回収率が 58.8%でした。裏を返せば、約 40%は回答していないことになりませんが、障がいの種類により、偏りはなかったのでしょうか？

【事務局：障がい福祉係長】

細かい部分まで、まだ分析ができていないため、即答はできませんが、今後、発送数と回収数を調べれば、障がい種別ごとに分析ができると思います。

【委員 A】

身体障がい者は、高齢者が多い状況があるので、高齢者の施策に沿うように考えていくことも大事なことだと思います。障がい分野と高齢分野で、うまく役割分担ができるように、データの分析を進めていくとよいと思います。

【事務局：障がい福祉係長】

今後行うクロス集計の際の参考にいたします。

2 暮らしについて

【委員 B】

アンケートの問 8 (1) の「グループホームやアパートの希望」の設問についてですが、「名寄市内在住の方の希望」が多いのか、「名寄市外在住の方の希望」が多いのか、わかりますか？

【事務局：障がい福祉係長】

今後、クロス集計を行えば、傾向がわかると思いますので、次回、報告するようにいたします。

【委員 A】

問 13 の「日常生活における介助の状況」の設問についてですが、⑨の「お金の管理」については、本人の認識と家族の認識に違いや差がありますでしょうか？

【事務局：障がい福祉係長】

今後、クロス集計を行えば、違いがわかると思いますので、次回、報告するようにいたします。

【委員 A】

このことを調べることができると、「権利擁護の必要性」がわかると思います。

3 介護者について

【委員 A】

問 15 の「介護者の属性」の設問についてですが、このグラフには、2つのピークが見られます。「80 歳以上」については、高齢の夫婦が介護をしている傾向だと思われます。また、「60～64 歳」については、20 歳代から 30 歳代の息子や娘が、親の介護をしているという傾向だと思われます。ここから見えてくるものがいろいろとあり、興味深いデータです。

4 福祉サービス等について

【委員 A】

問 19 の「病院にかかる上での困りごと・心配ごと」の設問については、困りごとで一番多いのは、3 障害とも「経済的なこと」であるので、「通院支援」が具体的なキーワードになると思います。

【委員 B】

医療費の一部を助成する「自立支援医療（精神）」という制度がありますが、この制度のことを知らない人が多いのかもしれませんが。

5 外出について

【委員 B】

問 21 (2) の「外出の目的」の設問についてですが、通勤・通学・通所の一つ一つの割合は、わかりますか？

【事務局：障がい福祉係長】

通勤・通学・通所を一つの項目にしているので、残念ながら、一つ一つの割合はわからない状況です。次回、アンケートを実施の際には、それぞれの割合がわかるように、項目を分けて実施したいと思います。

6 教育・相談について

【委員 A】

問 23 の「障がい児の学校教育に必要なこと」の設問についてですが、「福祉・教育の連携」と「個別の教育支援計画の活用」は、同じような意味ですので、この2つ数字を足せば、一番人数が多い回答となると思います。このことは、「切れ目のない支援」が必要なことの裏付けになると思います。

また、福祉側のアンケートに、教育側の「個別の教育支援計画」というマニアックな用語が出てくること自体が、すごいことだと思います。

【委員 A】

問 28 の「成年後見制度」の設問についてですが、知的障がい者と精神障がい者では、「成年後見制度の名前も内容も知らない」という回答の割合が、一番高くなっています。知的障がい者と精神障がい者は、成年後見制度が最も必要な方々であるのに、皮肉な結果になっています。この点は、計画立案の重要なポイントになると思います。

7 災害時の避難等について

【委員 B】

問 29 の「災害時に一人での避難の可否」の設問についてですが、「一人暮らしの人」の割合は、わかりますか？

【事務局：障がい福祉係長】

今後、クロス集計を行えば、割合がわかると思いますので、次回、報告するようにいたします。

【委員 A】

問 30 の「近所の助けてくれる人の存在の有無」の設問についてですが、精神障がい者は、「いない」の割合が一番高い状況です。問 8 のデータから、「精神障がい者は、63.4%の方が家族と同居している」ことがわかっていますので、これらのことから、精神障がい者がいる家族が、地域で孤立していることが見えてくると思います。

【委員 B】

この項目で、「できない」・「わからない」と回答された方の中に、「一人暮らしの方」がどのくらいいるのか、抽出することはできますか？この人たちが、最も困る人たちだと思います。

【事務局：障がい福祉係長】

今後、クロス集計を行えば、割合がわかると思いますので、次回、報告するようにいたします。

【部会長】

先日、Jアラートが鳴ったが、その時、「障がい者の方は、どうするんだろう」と心配に思いました。

【委員 C】

避難できる・できないは、町内会がポイントになると思います。豊栄区の町内会では、避難場所が、名寄中学校から名寄小学校に変わり、遠くなってしまいました。

【部会長】

各町内会の取り組みの状況によっても、変わってくると思います。

【委員 A】

個人情報保護の関係で、町内会にはあまり情報がない状況もあると思います。情報の把握ができなければ、精神障がい者が孤立してしまうことになります。

【委員 D】

過去にあった、豊栄の水害の時には、町内会はうまく動いていたと思います。

【委員 C】

「自由記述」の欄に、ハイヤー券に関する記述が比較的多いと思いますが、ハイヤー券がもらえるのにもっていない人は、何%くらいいるのでしょうか？

【事務局：障がい福祉係長】

H28年度では、対象 807 人のうち、ハイヤー券を交付したのは 439 人です。H29年度からは、郵送でも申請ができるようにするなど工夫を加え、利用促進に努めているところです。

【委員 A】

「自由記述」の欄に、家族会についての記述がありますが、家族会があまり知られていないのか、うまくつながっていないのか、それとも、家族会に入るのにハードルがあるのでしょうか？

【社会福祉課長】

市役所では、5月の「市の広報誌」の配布時に、「精神障がい者の家族会」のチラシを配るなどの協力をしています。

【委員 B】

家族会のことは、知らない人もいます。

【委員 D】

家族会については、私は、今後も関わっていきたいと思っています。昨年起きた神奈川の事件のあとから、痛切に感じるようになりました。

【委員 A】

ニーズから家族会に入り、家族会に入ってから人とつながっていくということもあると思いますので、「情報提供」が必要だと思います。

【委員 D】

教育委員会との連携も必要だと思います。

【委員 A】

「参考2の資料」についてですが、この「働く場マップ」には、福祉施設しか載っていませんが、名寄には、障がい者雇用に理解のある会社の会である「職親会（しょくおやかい）」があります。この職親会は、北海道独特の取り組みであり、地域の障がい者雇用を支えている状況があります。

4 その他

次回の第3回障がい者部会については、10月中旬に開催する予定です。

5 閉 会 **【部会長】**